



確かな技術を習得する シミュレーションセンター



医療用シミュレータとは、患者や医療場面を模擬的に再現できる機器のこと。その機器を使ってトレーニングする施設がシミュレーションセンターだ。

平成24年のシミュレーションセンター開所当初に導入した採血、聴診、触診等のベーシックなものに加え、新たに手術訓練などの高性能、多目的に応用できる機器を導入し、平成27年4月、「シミュレーションセンター」がリニューアルオープンした。

シミュレータを使ってトレーニングすることで、学生や医師、看護師等の医療従事者は、技術の習得や振り返りを行うことができる。何度も何度も失敗を繰り返し、そこから気付きが生まれ、得るものは大きい。

医療の高度化に伴い、医療技術の質と安全を確保するため、より高い技術の獲得が必要となり、現在、センター利用者は、開所当時に比べ、3倍以上の年間延べ約6,000人にのぼる。



これまでのシミュレータにはなかった人間に近い動作や反応を表現できる鼻・口の気管挿管や内視鏡検査等のシミュレータロボットだ。また、顔を人間そっくりに似せることで、利用者はより緊張感をもって取り組むことができるようになる。

2年後には製品化される予定で、その開発事業費に『とっとり大学発・産学連携ファンド』^{※2}第1号の出資をあてることが決定し、平成28年4月に記者会見を行った。鳥取から世界に発信できる近未来のロボット誕生が楽しみだ！

また、シミュレーション教育のニーズが高くなってきたことを受け、将来的には利用者の幅を広げ、関連医療機関の学外者等、地域に開放されたセンターとなることを目指す。

そして、現在、株式会社テムザック技術研究所^{※1}との共同研究によって、新しいシミュレータを開発している。



テムザックが開発したロボットを進化させ、評価型のロボットを開発中。

※1・・・テムザック本社（福岡県宗像市）と鳥取大学医学部附属病院との共同研究を契機に平成24年、鳥取県誘致企業として、米子市に設立したロボット開発企業

※2・・・山陰合同銀行が、鳥取大学保有の知的財産や研究成果を活用したベンチャービジネスに対して投資するため、平成27年に設立したもの

大山の魅力

vol.1 連載でお届けします！

この米子の地で、四季を通して私達に“癒し”を与えてくれる山、国立公園大山（標高1709m）。大山は、平成30年に大山寺開創1300年を迎える。

毎年開催される『夏山開き祭』前夜祭の行事として、「たいまつ行列」が6月4日に開催された。大神山神社で神事を終えた約1,800人の参加者がたいまつを持って1.5kmの距離を行列をなして大山寺傍勞座へと向かって歩いていく。たいまつ行列が始まると、暗闇だった神社の参道は、炎で包まれ幻想的な空間へと変わっていった。



